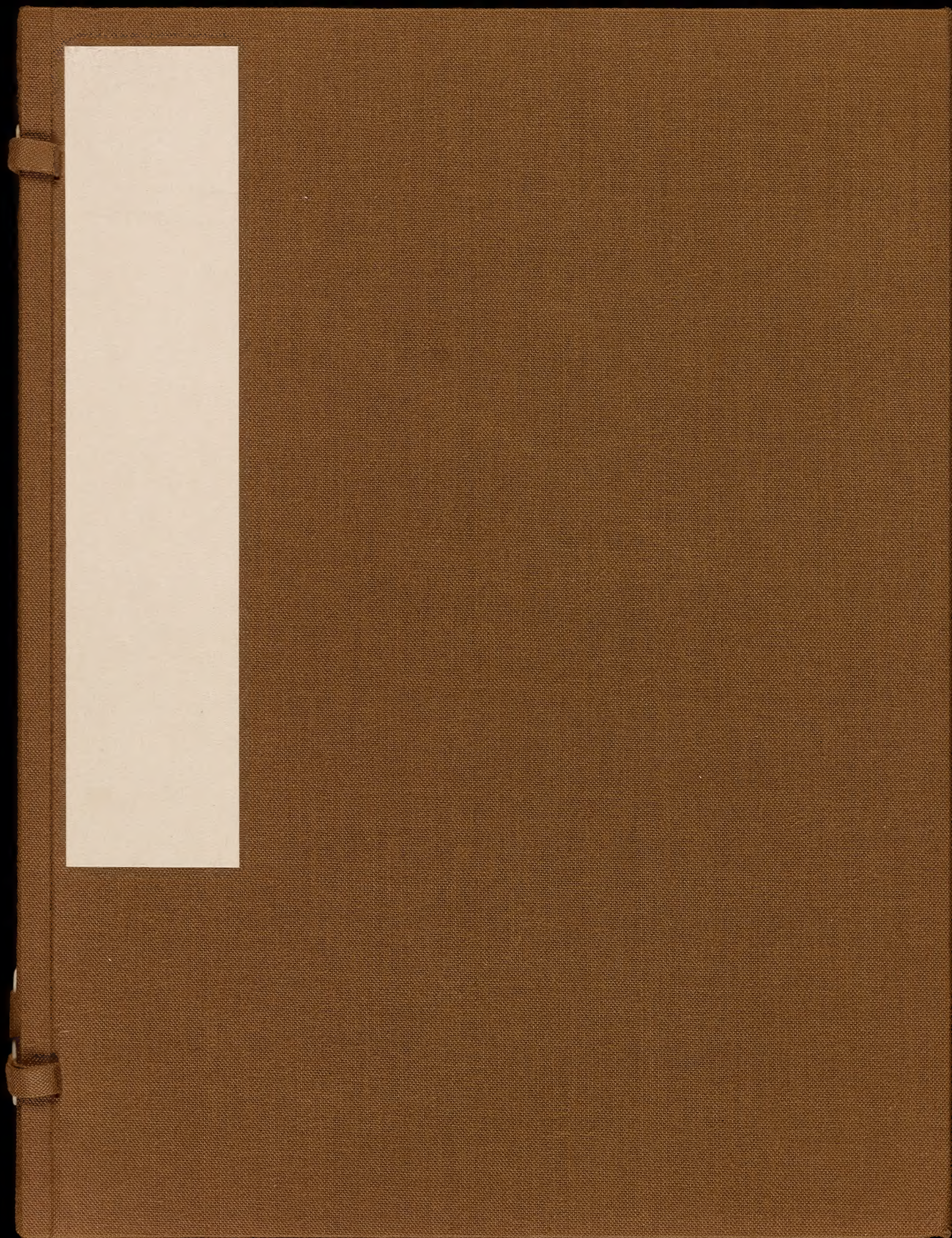


尾形流百圖

上

尾形流百図序

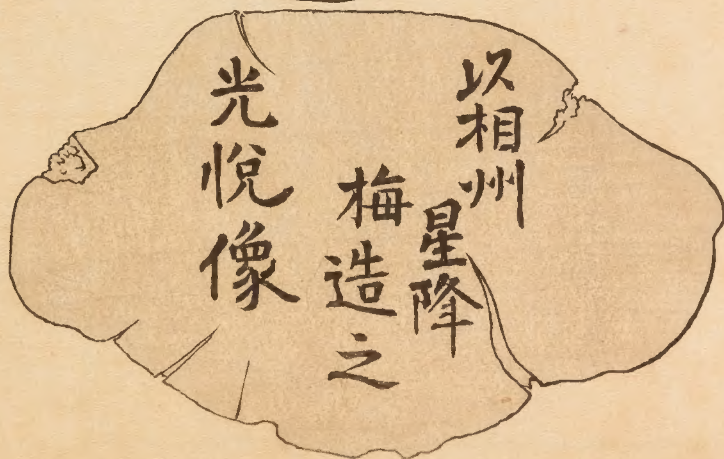
和この友中野其明ハ尾形光琳ぬしの流を慕ひ絵に
画遊なるものに於て尾形流百図をあらはして和のもとにも
きて来てはしの事をこゝろみたるものさうし絵にいとめてたし
たゞし尾形流百図といふ書も光琳宗達を始め名人に
あらそへるもの多かるハいかにぞやとあやしむ人もあるらむ也
とこはねし其のことも志るにはやうとも和漢の
あらはしたれハ又このなかまにもよろしくあるへし

のしさて此ふみことよたかし　てふ辞のなのおしく也
こゝよりかたつことの世きハ此ふみにのみいはく出きたな
かきてをそなへてなるちより後にふみの摂を汲ならむ
人ハよろしとめ給ふなとほゝめるにや

明治廿二年六月　　黒川真頼

本阿弥光悦木像





本阿弥光藻藏

光悦筆
極彩色蝶



萩之坊乗円談
光悦画定家卿

こぬ人をまつほの
うらのゆふなき
に
焼や藻塩乃身も
こかれつゝ

本田家蔵



権中納言
定家

墨画
拾得
一幅

法橋光琳
青々

団扇秋草
砂子地
極彩色



光琳筆
菊扇面







渡辺始興筆 寿老鹿

多賀谷氏蔵



乾山松竹梅 極彩色

鈴木氏蔵



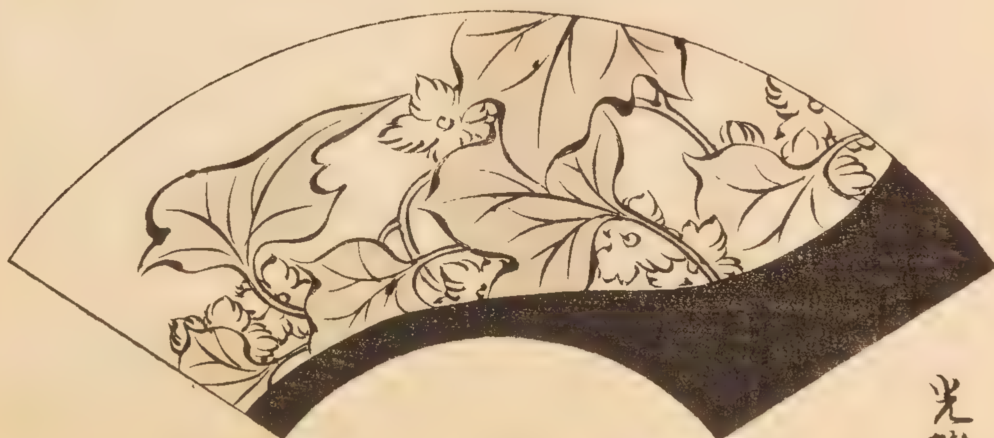


清巌讃 宗達画

田沢氏蔵



光琳草稿
毘沙天



光琳摹本



同

雨花摹藏

光琳扇面
二枚
白楽天
麻



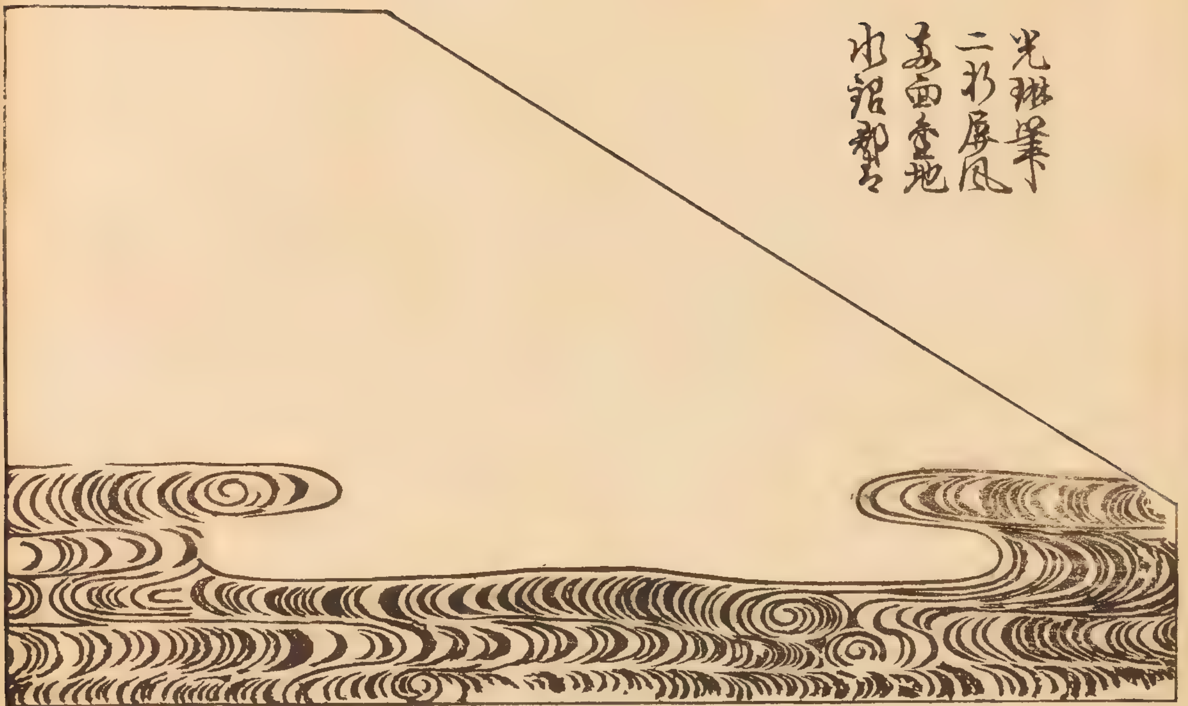
光琳二枚折
屏風片々
彩色

洞声



田茅氏蔵

光琳筆
二折屏風
表面金地
水紹部分







柏木氏蔵



光琳筆移菅公雲中之圖





絹本墨画山水



岸良筆



本阿弥光悦作印籠
黒地蒔絵
笠鉛蝶貝衣金
紋切金馬かなまり
胴錺詰

同地黒
竹蝶貝
笹金蒔絵





山本氏蔵

乾山作

紫檀茶杓水仙蒔絵共筒

寸法如図

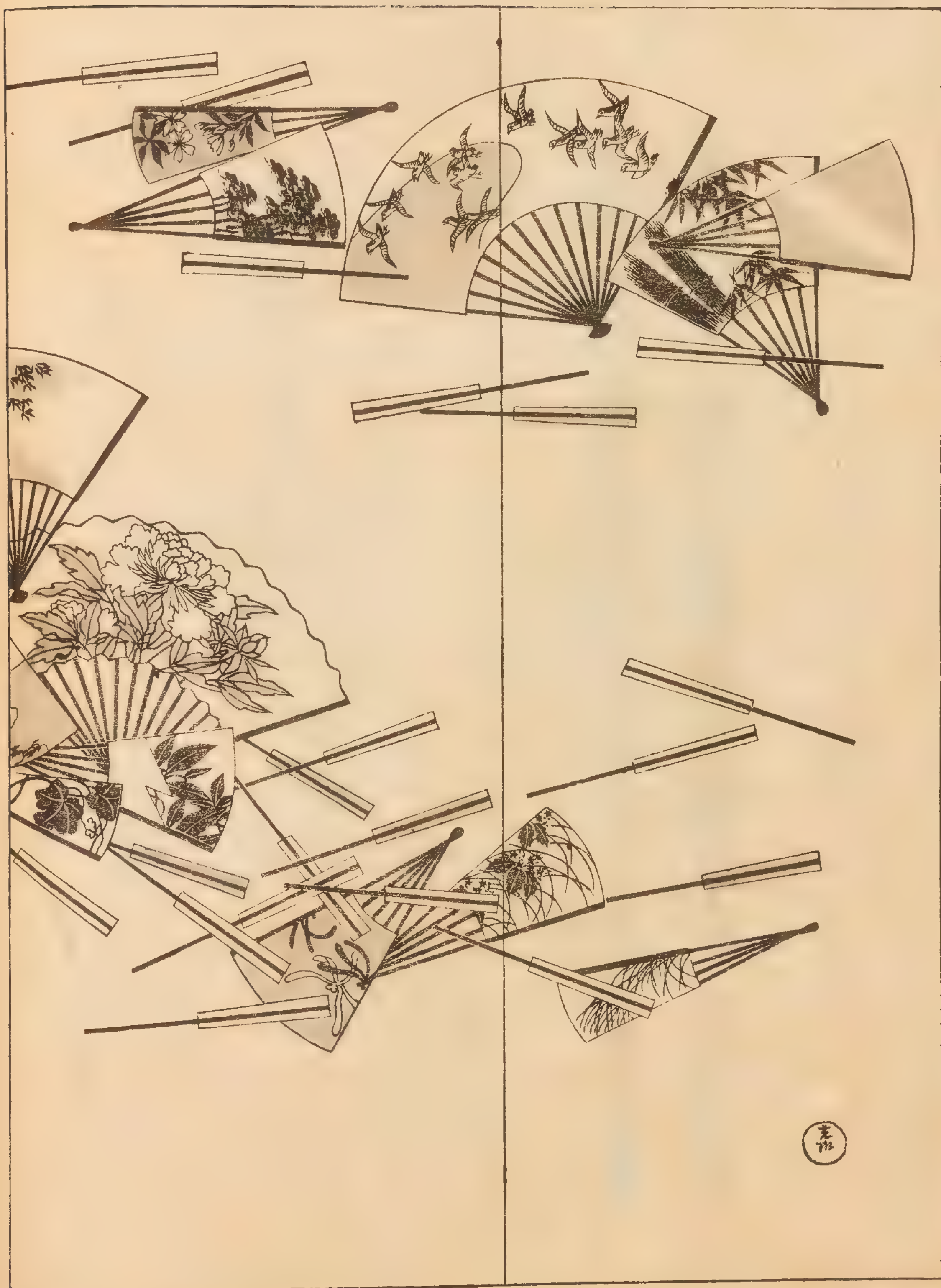






岸氏蔵

三井所蔵
鼻祖宗達筆
流尾形法橋
光琳摹本
極彩色
扇流八枚折
屏風一双















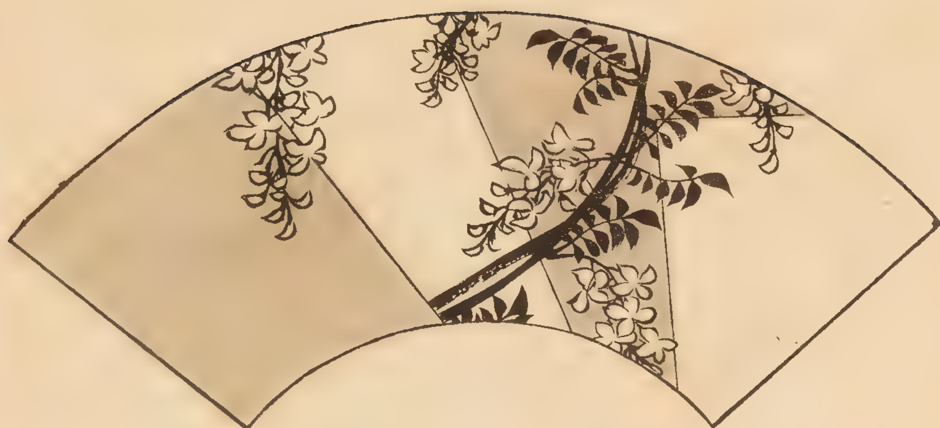

光琳

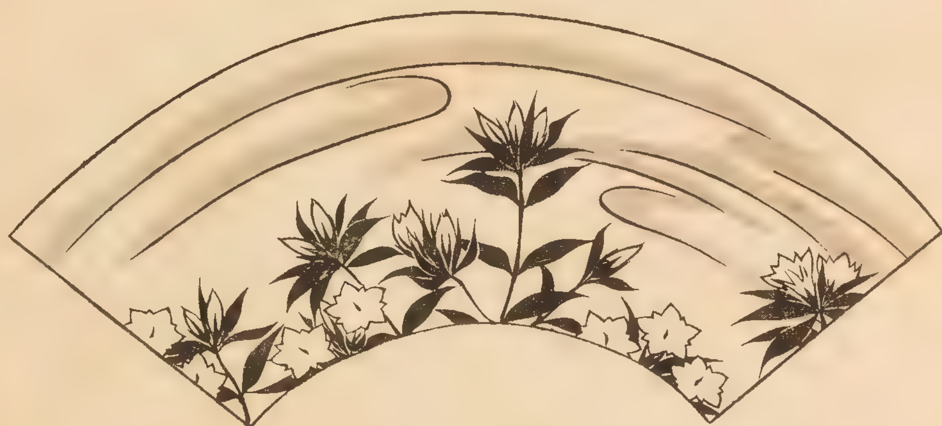
光琳摹本
扇面九枚



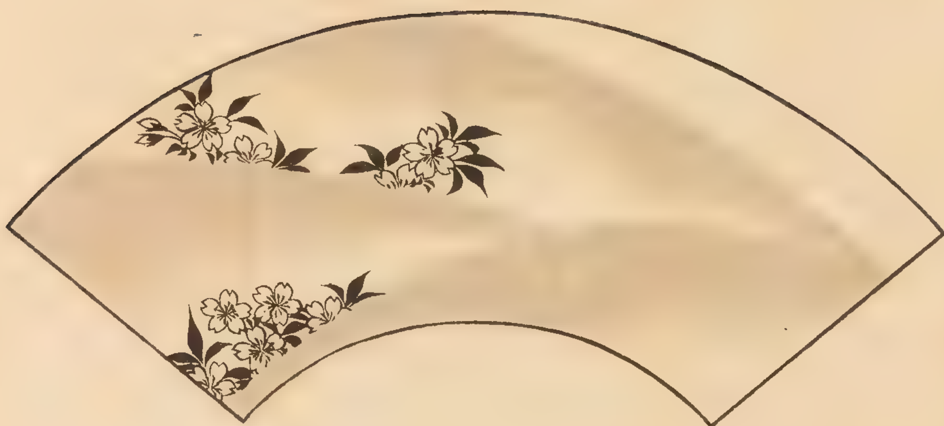




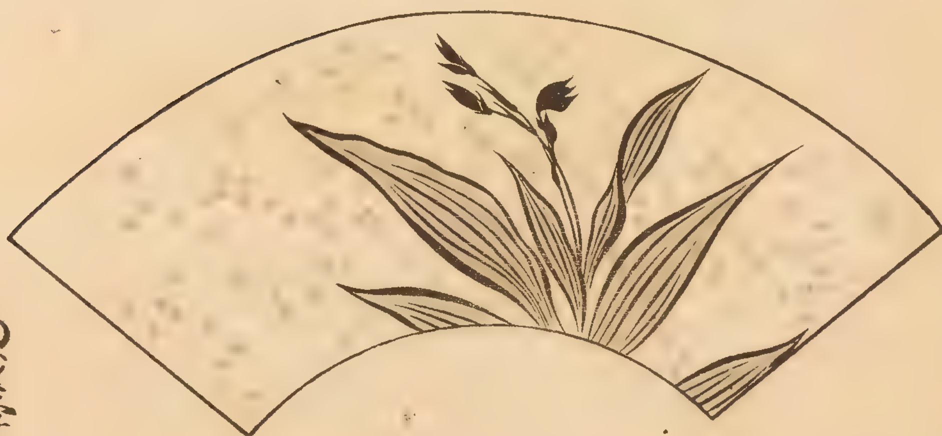












雨色春花

抱一上人自筆
袋之寫

寫本阿弥光悦自畫讃

三十六歌仙

外ニ書付二枚右ハ本阿弥
次郎太郎所持之手鑑也以本
阿弥栄次郎借寫者也

抱一文庫

申五月晦日
住吉内記ゟ借之

ふるらし
時雨
みむろ乃山に
神なびの
なかるなり
竜田川紅葉ハ
左
人丸



右　貫之

むすふてのしつく
にゝこる
山乃井の
あかても人に
わかれぬるかな



左　躬恒

住よし乃
松を秋
風
吹からに
声うちそふる
興津しら浪



右 伊勢

三輪の山いかに
待見む
としふとも
たつぬる
人もあらしと
おもへハ



七　中納言家持

まきもくのひはら
もいまた
曇らねハ
小松の原に
あハ雪のふる



山 赤人

わかの浦に
しほみちくれは
かたをなみ
あしへをさして
たつなきわたる



して

もと乃こゝよ

系男日と清ハ

あらぬ

乃りは

やまの

月屋あらぬ然花

さく　葉室郎下



太 遍昭僧正

いそのかみふるの
山辺の
桜花
植ゑけむ時をしる
人ぞなき



あへまちぬ
ひるまたもれよ
をさまる僧
まつ露ずつれ
春の乃ききの
き

素性法師



右　友則

夕されハ螢よりけ
にも燃れ
とも
光見ねは
や
人のつれなき



秋はかなしき
声きく時そ
なくしかの
紅葉ふみわけ
おく山に

猿丸太夫



恋　小野小町

かひぬ袖に　万代
うきねまお　松を
うつして
せきいる水　あらは
いなむとう　たゆみ



いかとうきく
ミよ乃まほうを
たかそこの
ゆりまくよ
ゑんしう絶の
さく　中納言兼輔



右　中納言敦忠

万代乃始と
けふを
いの里
をきて
今行末は神
曽
しるらん



七 中納言家持

伊勢濃海
よ以ろ乃
濱に
ひろふとも
しるしはなくて
かひろ一
つゐる一家



右　重之

春過てちり
はてにける
むめの花
たゞ
かはかりそ
枝にのこれる



才麿

あさきよめこ乃ゐりわ津こ心あへ八と夜の宮世乃もわ濡

大忠朝臣



右 忠岑

はるたつといふ
はかりにや
三芳野乃
山も霞て
けさハ見ゆ覧



尾形流百菊

下

り色たえて
ゆかの霧を
きえしあさき
りの里
し袖
松つゆには
袖よそへ行の
さて　東宮女房



右　頼基朝臣

ねのひする
野辺に
小松を
ひきつれて
帰る山路に
鶯そなく



枯ぬとおもへは
人めも草も
まさ里ける
さひしさ
山里ハふゆそ
大　宗于朝臣



右　重之

夜ゝわ乃嵐の
あしを誘ふ——
うき
まき井のつる乃
う流ゝをう
なき



今や鳴らん
をのへのしかは
高砂の
さきにけり
秋はきの花
さ
敏行朝臣



右　信明朝臣

ほのぼのと
有明の月の
月影に
紅葉ふき
おろす
山おろしの風



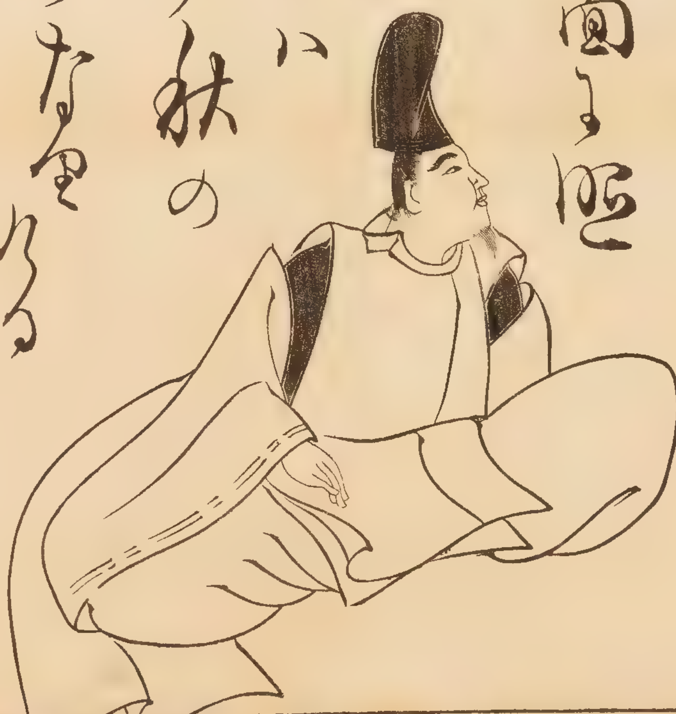
左　清正

あまつかせ
ふけゐ乃
うらに
ゐるたつの
なとか
雲居にかへ
らさるへき



右　順

水の面に照
月なみを
かそふれは
こよひそ秋の
もなかなりける



契けむ心そ
つらき
たなはたの
年に一度
逢ハあふかハ

興風



右　元輔

契きなかたみに
袖をしほ
りつゝ
すゑの松山
波こさしとは



七と　是則

三芳野乃山の
しら雪
つもるらし
ふるさと寒く
なりまさるなり





右　之
さきにけりわか
山里乃卯花は
かきねにきえぬ
雪と見えるまて

見る
雲のとはゝ
たついなかなきを
くゝ神は
風乃もせゝ
大井川多まふ

左　小大君



右 仲文

思ひしる人に
見せはや夜も
すから
わかとこ
なつに
おきゐる露



物をこそ思へ
ひるはきえつゝ
夜はもえ
焼火の
みかきもり衛士の
大中臣 能宣朝臣



忠見

いづかたに鳴て
行らむ郭公
淀のわたりの
まだよぶかきに



左　道晋

しの子
神と
きよ出よ
くわ
宗忠ハ
もの乃や
たもち
と
人のとゝまて



右　中務

秋風乃吹に
つけてもとはぬ
かな
荻の葉
ならハ
音ハして
まし



林和清
淡彩



墨画 鶏



多賀谷氏蔵

空中筆極彩色三幅對





極彩色
菅公

淡彩
鵜舟



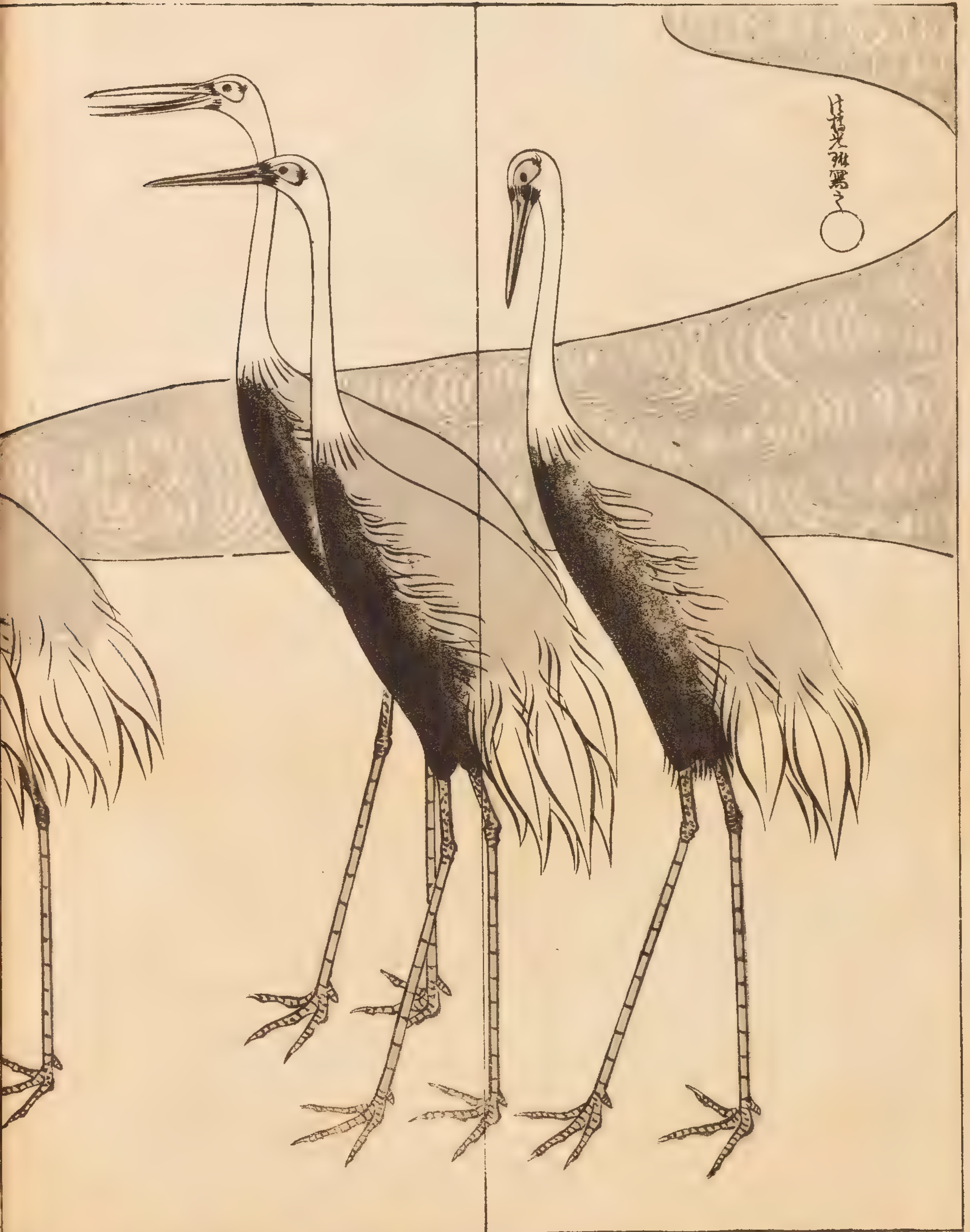
雪の寒梅
淡彩

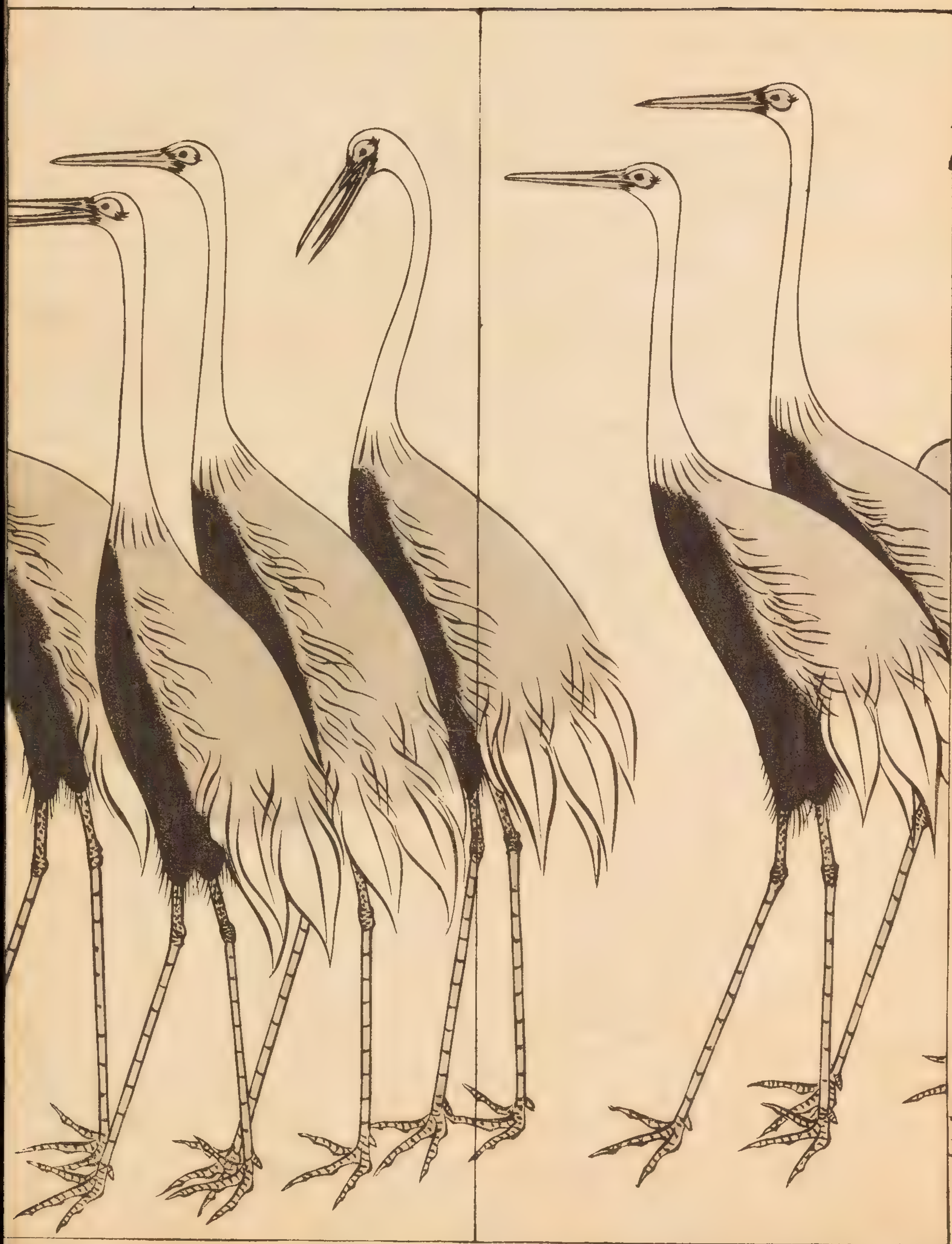


雪の松
淡彩



青山彦家蔵
雲鶴羣歩圖
金地六枚折
屏風一双















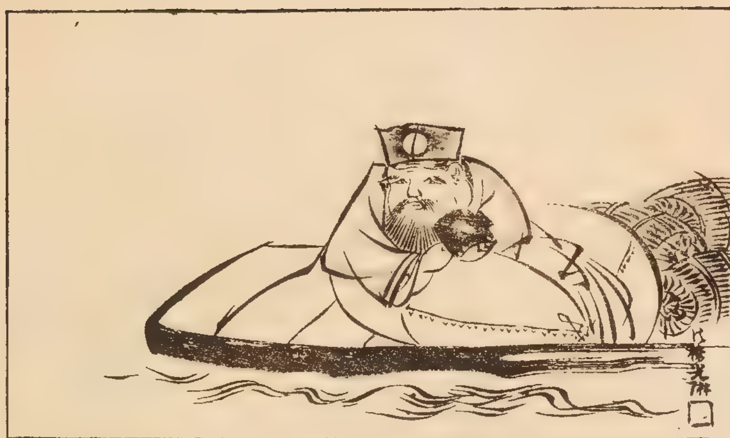
青々光琳画之

福女之図
彩色



宗理筆梅椿孔鶏彩色

光琳墨画大黒天



宗達筆
三幅彩色







光琳筆 袋戸二枚





何帠筆 紅白牡丹彩色

宗達筆
二幅
竹風手
倣ひかく









法眼如興
諸葛亮之
像法彩



法眼如興筆 寿老人鹿 法彩



鶉（ウヅラ）

クヒノヒルトキハ
紫ノサカイナク
ノヘツケ之



比ホノモヤウ
カクル、トキモアリ
ミユルコトモアリ

彼之始興筆
小野真写一巻之内
野澤氏之蔵


呼潮（チトリ）
享保十八癸丑
十二月五日
ウツムク時ハ
首スジノ白ミフトク
アヲヌク時ハクビノ白ミホソシ
ムネノ黒ミ毛ミシタコウ


セクロ
セキレイノ
ヲ世又
キ色有
下尾四枚
白


魚狗 カハセミ 本綱
又セウヒン
トモイロ
ケカキ
アリ

宗達法牛狗
二幅墨画





尾形宗謙筆恵比寿漁影



尾形宗謙
自画讃
一毫泥引
淡彩
小川氏蔵

毎朝見花と
いふことをよみ侍る

中院右大臣

あさなあさなまかきの
こゝろをかけて乃

朝露に

花乃こゝろもさそ
ぬれぬ日そなき

藤原季通朝臣

中つかたの
あさかほの
つゆのまに



難波名所よ
堂之風の歌

百花之譜
たまてる時よ見る

大炊御門左大臣

としごとに襟を
めぐらぬ松を
ゑ然そや

またあらて見
我世
池乃水あらまし

紫翠ノ湊有画

伊予守郭公
なく通るをとめ家
賀茂成保
ほのみえし雲乃
こゝろもまゝ月さして
山ほとゝきす
所しらねは
刑部卿頼輔
哥合し侍ける
納涼乃
ものおもひあへす



宗達筆 秋草小屏風 金地極彩色

前参議教長

岩たゝく谷の水のみおとづれて
夏にしられぬ深山邊の里

堀河院御時百首
哥たてまつりける時
よめる

大納言師頼

しげり[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

百首歌よみ侍りける時 月のうたとて

参議雅経

[illegible]



宗達筆松彩色小屏風

祝部成仲

立田山
麓乃里八
遠けれど
あらし乃つてに
もみぢをぞ見る

題しらず
紀康宗

曉乃よさめきこゆる
しのゝめ袖いそ
もろともに人ぬる
袖ぬれけれ



雪乃名とし
よみえれ
菊乃家隆郎

霜の袖乃
乃ちまとれ
やせたれハ
錦

栄よりも梅の
花もありける香
後朝乃恋乃色と
しらる
深二位杉阪

人の毛乃かき



あやめ草ひく
水にかけたる
根の

ふしの数にそ
わけ残すつゝめ

みさふらひましく今時
ある羽房よりこの世話ある
此八条院内親王より
今すをより給ふこれ竹遊
年来とこそ足被さるれ
あるにつきを語る

院御製

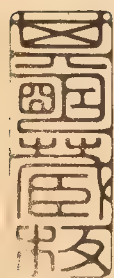
幾かへりとかよし世々の宿
これ竹や君か代を
くめとも形の苗

寛文五年六月日
清水[illegible]宗達



さいつとし抱一上人おなし画風の人々乃
印を集めてこれをすまきたるをさく
かくしれて尾形流略印譜といふおやけ
け神者かこゝろひおのれそゝまてなしひ
光琳のみもあらは光悦宗達等の画をも
縮写しあつめて尾形流百番やと名つけ
同好の人に伝へ月雪のおりにめつるものと
勢んとす

晴々女明誌



彫工　田中養壽

明治廿二年八月一日出版
明治廿五年六月十日印刷
明治廿五年六月十五日再版

編輯者　東京淺草區上平右衛門町十三番地　中野其明

發行者　仝　日本橋區通四丁目五番地　和田篤太郎

印刷者　仝　京橋區采女町三十一番地　酒井留吉

發行所　東京日本橋通四丁目角　春陽堂